

週日の説教

金 大烈 神父 2009年6月2日(火)

《私によって相手を生かせるように》

私たちの人生には、いろいろなチャンスがあります。

しかし「私の人生にはそれほどチャンスがあったとは思えない」と言う人もいます。もちろん、チャンスの基準がお金や成功、自分を高めることならば、そういう機会のないこともあるでしょう。いつも貧しい環境にいたため、一生懸命頑張ったけれどこの世のしくみでは、立派な金持ちになれなかった、という人はいるかもしれません。けれども、私が今日皆様にお話ししたいのは、成功するチャンスのことではなくて、善いことをするチャンス(機会)とか、悪いことを避けるチャンス(機会)のことです。

もし、お金をたくさん持っていて、自分の良心をだましながらもうけたお金ならば、決して幸せにはしてくれません。そして、高い身分というものも意味はないと思います。結局、自分の良心が楽になり、貧しくても空腹でも「幸せだ」と思えば、私たちは「幸せな人」と言えるでしょう。

今日の福音(マルコ 12・13 17)を見ると、人々がイエス様を「陥れよう」としています。実際、人生の中には陥れようとする人がたくさんいます。思いもかけない理由で、相手を 倒そう、 陥れよう とする人々がいるのです。そして、その人々に陥れられる貧しい心を持った人もたくさんいます。

誰かを陥れようとする機会は、全ての人々に与えられます。その時、是非お願いします。その与えられた機会を、出来るかぎり、人を生かせる方向に使ってください。人を救う役割になってください。人を陥れようとする心が生じたら、必ず強く祈ってください。「なぜこのような気持ちが私の心に生じるのか」、「こういうチャンスは、絶対に私に与えないでください」と。

歴史を振り返ってみますと、このような謀略・陰謀によって悲しい人生を終えた人が結構います。それは、今も起こっています。そしてこれからも起こるでしょう。皆様は、その悪い役にならないように、心から避けてください。

このような機会は、必ずあります。身近な友だちの関わりの中でも、相手が正しいことはわかっているのに、腹が立ってしまい、どうすればよいか分からなくなることがあります。そして、悪い役になってしまいます。そういうことが、信者の中でも結構あります。

相手を責めようと思うとき、責める理由が本当に正しいのか、自分は相手を批判するのに本当に相応しいか、責めることがその人にも自分にも役に立つのか、それをよく考えていただきたいのです。あまりにも感情的になりすぎて、すぐ怒りを見せてしまうことで、そのような、自分を生かせる、相手も生かせる機会を、失ってしまうことが結構あるのではないかと思います。

今日の福音のテーマは、「これは皇帝のものか、そうではないか」ということではありません。全ての人間は良心、良い心を持っています。しかし、その良い心に素直に従わないで逆らってしまうのが、私たちの弱さでしょう。良いことをするのは大事なことです。しかし、今日のテーマは、悪いことをする誘惑が与えられたときに、それを避けようと努力することがものすごく大事だ、ということだと思います。

皆様、絶対に人を殺す立場には立たないようにお願いします。私にはそんなことはありません、とは言わないでください。言いすぎた言葉によって、見せた目つきによって人は殺されます。できる限り、そういうことを気にして、私によって相手が生かされれば何と幸せなのかという気持ちで生きましよう。

ありがとうございました。